

喜楽会恒例の 平和を受け継ぐ映画会

喜楽会恒例の平和を受け継ぐ映画会を7月7日(日)支部会館で39人の参加で行いました。

今回の上映作品は吉永小百合主演の「母へえ、戦前の軍国主義が台頭する中、特高警察の弾圧を受ける父親と残された家族を守る母親のストーリー」。

自・公安傍政権と石原・橋下維新など改憲派が進めようとしている「戦争ができる国」がまさに行われた時代背景を映画化された作品です。

参加者はその時代に青年・少年として暮らした喜楽会の会員さんたちで



日本を戦争ができる国にしてはいけません

す。映画を見ながら今の改憲の動きを改めて感じていました。

参加者からは「この動きは年寄りの昔話ではない、戦争に取られるのは現在の若者や子供たちだ」と話していた様に、石破自民党幹事長がTVで発言した「戦場から逃げれば死刑だ、徴兵を拒否すれば無期懲役だ」と直接若者にのしかかる憲法改悪になります。

上映後懇親会を開き、改めて「憲法9条と基本的人権規定」の大切さを語り合った上映画会になりました。

熱中症対策には水分補給はもちろん、同時に忘れてならないのは塩分です。

特に運動の後など大量の汗をかいたときは、発汗によって塩分も失われます。ここに水だけ補給すると血中の塩分濃度が薄まり、すぐにどの渴きが止まってしまい、逆に体液を濃くしようとする尿などの量が増え、ますます水分が不足してしまいます。

同様に糖分も失われま

熱中症

水だけでなく塩分と糖分も



度に含まれた水(0.1)0.2%が理想的です。代表的なものはスポーツ飲料です。水やお茶よりもたくさん飲むことが確認されています。

昔から日本人はスイカに塩をかけて食べる習慣があります。スイカは90%が水分で残りが糖分です。これに塩、糖分は多めですが、疲れたときなどは理想的な水分補給の方法です。

汗だくになって初投稿

ブログ学習会開催

教育宣伝部の長年の懸案だったブログ学習会を6月29日(土)午前10時より、支部会館事務所講師に女性の会の鎌田富江さんを招きおこないました。

今回初めての試みで、江東支部ブログ「江東をぞろあるき」への写真や

文章の投稿方法を学びました。7人の参加者は、カメラからパソコンに写真を張り付けコメントを投稿するのですが、初めての方も汗だくになって投稿しました。

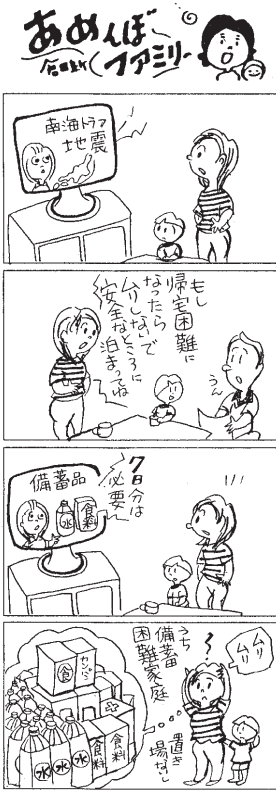
講習後、受講者からさっそく当日の様子や今後の分会の活動・組合の

取り組み等が更新されています。ブログを見るためには、インターネットで東

京土建江東支部のホームページを開き画面右上にある「江東をぞろあるき」をクリックしてください。携帯からも閲覧できます。URLはこちら

<http://blog.aq.taquin.com/koutousozoro/>

出来あがりはネットで確認して下さい



夏「庶民のまちの学び」第11回 深七分会

中尾 正文

夏真っ盛りの中、八幡宮の水掛け祭りを恋しく思います。江東区は平和の象徴です。今、平和の祭典であるオリンピック・パラボリックの招致を運動し、会場が沢山予定されるわが町を振り返ってみたい。

確かに無駄使いのような祭典です。金の使い道は幾らでもあるのですが、韓国・中国から日本へとアジアの力が示せるチャンスとも言えます。世界は欧米軸足から確実にアジアに動いているのだ。

さて、歴史に少し学んでみましょう。明暦の大火で江戸が全焼した一六五七年を、平和都市の建設を記念して、江東区の元年としましょう。徳川幕府建設の黎明期に別れを告げ、平和の世の建設への舵切りになったのです。長い戦国時代を終りを告げ、平和が訪れることを多くの民は、心から望んでいました。子を人質に出し、兄弟を敵に廻して、一族を守らねばならぬ悲劇は、決してほめられたものではありません。二十一世紀の今も、この教訓すら忘れ、「戦う」体制を復活させようとしています。

我ら江東の仲間

家光は死(一六五二)に臨んで枕頭に正之を呼び寄せ、肥後(正之)・上宗家(徳川本家)を頼みます。だれもが、天下を取った、その権威・力を誇示しようとするのが、価値観・権利とされている社会環境で、たまたま大火で焼失した江戸城天守の再建について、無駄な出費は避けるべきと保科正之は主張しました。下馬將軍

酒井忠清も、保科主張を支持し、將軍家綱(六歳)が受け入れ、そのため江戸城天守は再建されず、以後、江戸城天守台が天守を戴くことはありませんでした。

江戸町の復興を優先し、非常時の備蓄基地として、安全な川沿いの地に、木・材・米・石などの集積を進めました。寺社の移転を進め、日除け地を設け、橋を架けました。民が逃げやすくなり、江戸町の再建資材の確保を考え、幕府は、現在の東日本復興の基盤もたすら超えていきました。江戸の華である火事が毎年起きていた百万都市(世界最大級)の防災都市創りだったのです。

どのような社会を作り、町を計画していくかのビジョンは、見習うべきです。「平和」の絶対感、少なくとも十九世紀初めの文化文藝時代までの百五十年を見逃せません。もちろん結果を知っている者の戯言でもありますが……。

深川を中心とする江東地域は、そのルーツを「江戸時代の平和都市への変換時、安心安全の防災基地として発展してきたこと」に見出し、原爆や震災などの被害者感に根ざす「平和」主張とは一味違う「本質平和」史観を掲げ所にしたのです。

江戸時代二百六十四年ではなく、緑者江東は、もう少し丁寧に歴史に学び、民が生き延びていく価値を、粗野な理屈で国に命を取られることのないようにしたいものです。

最終回は、幕末に少し教養を乞います。

求人

大工2名常用/町場/経 東区南砂6-7-50-1
218/090(244)
218/090(244)

☆ナカミ工業/江東区 6/0605/解体雑工
☆マルハウジングサー 3人/常用/社員見習可
☆森設備工業/荒川区南 5/43-1/090
☆藤原総 51才/江東区
17/03-3648-1 090(5543) 51 千住3-30-13/090
33507-9577
5381(担当天塚) 89/防水工2人/常用
(8009) 4494 希望職種・鉄筋/希望入
ma.rhina@oregano.com 配管工/3人/常用/経 数・1人/資格:玉掛取
e.jp 得

求職

☆有限会社相川工業/江 験者